

電磁応用

第12号 1985年 2月

昭和60年の新春を迎えて

理事長 川原田安夫

明けまして、新年おめでとうございます。

研究所は新体制になって5年目を迎えました。なお若干の問題は残っているとは思いますが、この間関係の皆様のご支援によりまして、少しづつ一つの形に固まりつつあるように思われます。ここに厚くお礼を申し上げます。

日本の経済は国際化の進展に伴い更に社会は複雑多様化の動向であります。その反映の一つとして政府関連の国鉄、電電事業の大幅な経営の改革が始まっております。これが国民生活にとってよい方向になることを切に祈るものであります。当研究所の活動もこれらの動向の影響を考慮して行く必要があると思えます。

ついては、今年は僅かでも国際的と言える具体的な活動を行う努力をいたして見たいと考えております。この為昨年、関係の方々のご意見を伺う機会を求めて参りました。

更に問題を整理して皆様のご理解とご支援を追ってお願いしたく思っております。今年も研究所はよりよい活動を推進することといたしたく思いますが、皆様のお力ぞえをお願い申し上げます。皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げて新年のご挨拶といたします。

第1回新制度検討委員会 (60・1・21)

山崎、岡野、小貫、小原、示村、川原田の全委員が出席して奨励金制度(案)について討議を行った。規模、対象等更に慎重に検討すべき面もあるので、来月の第2回委員会において討議を重ねることとなった。

資料 川原田奨励金及び奨励研究員制度(案) (示村)

丹羽記念賞規程及び丹羽記念賞要領 (岡野)

昭和59年度 研究成果中間報告

大附辰夫氏より次の報告が提出された。

1. 並列ルーティング・プロセッサの試作; 情報処理学会 84-9-18
2. 計算幾何学的手法を用いた二層ルータ; 情報処理学会 84-9-18
3. 配線処理手法; 情報処理学会 84-10
4. 枝素な道を求める算法を利用したチャンネル配線手法; 電子通信学会 84-10-19
5. 並列ルーティング・プロセッサ; 情報処理学会 84-11
6. グリッドレス・ルータにおける配線パタンの更新手法; 電子通信学会 84-12-1
7. 二層ダイナミック・ルータに関する基礎的考察; 電子通信学会 84-12-1
8. SS/TDMA衛星通信方式におけるサテライト・スイッチ・パターン決定アルゴリズム; 電子通信学会 85-1-24

9. 連想メモリを用いた配線処理法 ; 電子通信学会 85-2-1
10. 計算幾何学の配線径路探索への応用 ; 日本OR学会 第13回シンポジウム
11. 並列ルーティング・プロセッサ ; 情報処理学会 第29回全国大会
12. 二層縦横原則配線における一方向最短径路アルゴリズム ; 情報処理学会 第29回全国大会
13. GRIDLESS ROUTERS FOR TWO-LAYERS INTERCONNECTION ; ICCAD 84

なお、大附氏は本年5月中旬頃まで下記に滞在され、研究活動をされておられる。

Dept. of EECS (Cory Hall) College of Engineering, Univ. of California,
Berkeley CA 94720, USA

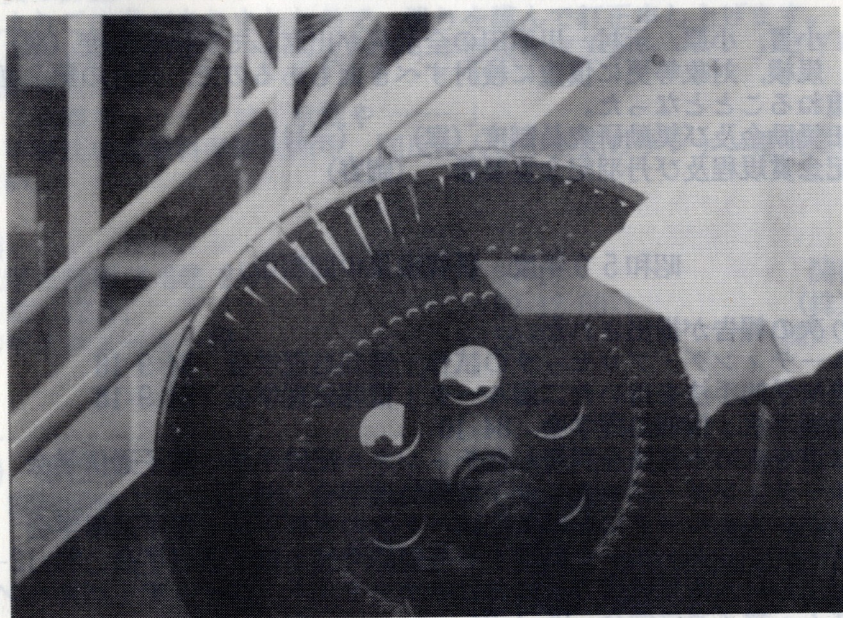
新しい委託研究

かねて郵政省通信政策局より当研究所に対して打診のあった「ITU コデプテル活動に対する協力」について、正式の依頼文を发出する旨の連絡を受けた。研究活動の詳細は(財)日本 ITU協会と近く協議を行う。

故理事長の業績

故理事長の古い記録の中からちょっと興味を引く資料が出てきたので記録として残したい。それは当研究所が関係した研究テーマや機関名のリストの本人の直筆である。

研究テーマとしては、太陽エネルギー、高速映写機、立体映画、小発電、光電話、磁歪機器、電気監視、自動制御、自動機器、航空計器、船舶計器、鉄道信号、農業機関、光合成と並んでおり、これらのテーマに強い興味があったであろう。第一項の太陽エネルギーの利用については晩年特に情熱を持っていたようで、全国各地を訪問しては広大な安い土



受像用 鏡車

地を獲得して、この研究を行うのだと言っていたことが思い出される。初期のレーザー発信器をアメリカから購入して子供のように喜んでこれを扱っていたことが思い出される。

又関係機関としては文部省（試験研究費）、電磁興業（株）（科学映画）、早稲田大学（大学院学生、分析試験）、電磁会、新東洋時計（株）（時計、自動車計器）、大同信号（鉄道信号）、富士船舶工業（船舶機器）、平野製作所（紡織機）、中興電機（電気機器）、日飛モータース（自動車、ヘリコプター）、中国電力（電気工作振動）、農林省（農林工業）、富山県能事試験所（穀物温度計）、富山電工（自動計器）等と列記してある。前記研究テーマと関連を持って対象と考えていた機関名のものである。

このメモが何時頃書かれたものか明らかでないが、このリストが昭和31年民間学術研究機関補助金の申請書下書きと一緒に袋に入っていたので、本人の60才前後（昭和30年頃）のもののように思われる。生涯を通じて電動機、振動現象、時計、農業機器等に大きい関心を持っていたように思われる。

なお去る1月25日上野国立科学博物館に工学研究部長青木国夫氏をお訪ねして、故理事長のテレビ研究機械を拝見させていただいた。映画フィルム送像装置と鏡車、ポニー円板等であったが何れも頑丈な鋳鉄製部品を組合せたものであり、微細な調整にはさぞかし苦心したことと思われた。

写真は倉庫に保管されている投影用の鏡車で、これに光をあてて銀幕にテレビの画像を写したようである。画素となる鏡の位置、鏡車のバランス等大変な苦心が偲ばれる。（川原田）

第29回通信技術懇談会（59.11.30）

— CCITT第8回総会の概要 —

本年10月8日から19日までの間、スペイン国のマラガトレモリノスで開催されたCCITT第8回総会に出席した小宮委員から、その概要について次のような報告があった。

総会の主要議題は、今研究会期（1981～1984）の研究委員会（SG）の活動状況の報告と勧告案の承認、来研究会期（1985～1988）の研究課題の採択と研究委員会等の再編成及び研究委員会等の議長・副議長の選出等であるが、今回は特にCCITT委員長の選挙が行われた。

勧告の審議では、データ通信関係でMHSのサービス、ファシリティ、プロトコル等、テレマティーク関係の端末でビデオテックス、グループ4型ファクシミリ、ミックスモード等、ISDN関係でISDNの基本原則、サービス、ユーザ・網インターフェイス等をはじめとし260数件の新勧告が承認された。

研究委員会等の再編成では、基本的な検討を行うための特別委員会が設立されたこと、言語に関する研究委員会が新設されたことなどが特色であった。

一般的には、他の国際機関の例にもれず、南側諸国の発言や要求が強くなり、国際的な技術基準の場としての難しさの増大が懸念されること、電気通信技術やサービスの複雑化に伴って、ISO、IECなどの他の国際機関との関連が深くなって来たこと、各国の産業政策的な取組みが強くなりつつあること等から、わが国としても明確な方針のもとに適切な対策を強化することが必要となって来たと思われる。（小宮）

第30回通信技術懇談会（59.12.10）

— 教育情報工学について —

日本電気の栗木富男氏に上記についてスピーチを願い討論を行った。

教育情報工学、即ちエレクトロニクス機器を使った教育と言えば直ぐCAIを思いつくが、教育情報工学は教育現場の要求にあわせて、必要な情報を整理分析し、そのソフトを

コンピューター情報化することで、CAIより教育現場に近い思考と言えよう。こう言った考え方はITUの始めているCODEVTEL教育訓練の標準化活動にも通ずるものがある。

この考え方は又個別診断などの高度の分析も出来ると云うことで一流企業がこのシステムを導入しようとする動きが出はじめている。新しい動向の話として、会員から色々の質疑があり又意見が出された。(川原田)

通信技術懇談会年末懇談会 (59. 12. 27)

年末懇談会として日本棋院の小林千寿5段、小林健二5段のお二人を招いて指導碁会を行った。会員の菊地信一郎5段と小林健二先生が対局し、小林千寿5段が解説をされた。会員の注目する中で菊地5段は中盤まで好調に打っていたが、大きいミスが出てしまった

第31回通信技術懇談会 (60・1・29)

— 独立国際委員会 —

全世界の人々が21世紀には電話機を持てることを目標にする独立国際委員会(委員長英メイトランド氏)の勧告内容が明らかになった。この中に「電気通信開発センター」の設立がある。先進国は毎年1000万ドルの援助をすべきとし、5月の西独のサミットで討議が行われる見込である。南側の要求には毎年30億ドルの援助を義務づけるものや、赤道上の衛星軌道を先進国が独占するのを反対するもの等過激なものがある。この勧告がサミットで採択されると、当面の南北間の摩擦は回避されるが、南北間の格差はなお大きいので今後の電気通信における南北問題は大きな課題としてのこされる。当懇談会の会員としては直接的な問題ではないとしながら、日本の政府、企業が真剣にその対応を考える時が来つつある課題との見解は一致した。(川原田)

第11号 1頁の訂正

平野氏よりご注意がありましたので、誤りを謹んで訂正申し上げます。

1頁の平野正勝氏の項、下から5行目「平野氏は東芝から……」は「平野氏は東京市電気研究所から……」

俳句「秋霜や……」は「秋霖や……」

なお、平野氏は産業科学研究所で、同氏友人の小谷氏のサンケン電気には関係をされていない。

受領資料

1.工学と技術(8巻2号)

59-11

関西大学工学会

2.日立 12.1.

59-12 60-1

(株)日立製作所

3.スギノニュース 12.

59-12

(株)スギノマシン

電磁応用 第12号

昭和60年 2月 1日発行

編集発行人

川原田安夫

発行所

(財)電磁応用研究所

①107 東京都港区南青山5-1-10-808

電話 東京

(03) 499-1888